

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	・特別活動や学校行事の運営をできる限り生徒主体になるように計画し、生徒が活躍する場を設け、生徒の達成感向上を図る。	A	A	A	・学習指導を充実させ、感染防止対策を徹底しながら学校行事を計画通り実施することができ、90%近くの生徒が好きだと感じている。 ・行事の精選を含めて、生徒が積極的に学校生活に取り組みめるようじゅうぶん検討を加えて年間計画を立てる。	・生徒・保護者ともに学校生活に満足している割合が高い。
		② 55分6限の授業に満足している生徒・保護者が80%以上である。	・十分な教材研究に基づくわかりやすい授業の実践をする。 ・チャイムスタート、エンドを実践し学習時間を確保する。 ・シラバスの活用と改善に努める。 ・思考力・判断力・表現力の能力向上を目標としてICT 機器等を活用しながら授業改善をはかる。	A	A	A	・55分授業を導入から5年となり、職員・生徒ともに定着した。ICT活用を含めた授業改善も進めている。 ・55分授業の内容を一層充実させる。そのために職員研修を効果的に実施する。	・スクールポリシーの内容に合わせ、実施されている。
		③ 授業日を確保しながら学校の活性化を図っていることを肯定的に受け止めている生徒・保護者が80%以上である。	・授業時間を確保しながら、学校行事等とのバランスを考慮し、メリハリある生活の実現により生徒・保護者の満足度をさらに高める。	A	A	A	・学校行事を例年に近い形で実施することができた。生徒の主体性を活かして成果をあげることができた。 ・授業時間の確保を前提に、行事の精選も考慮しながら学校が活性化するようバランス良く行事の計画を立てていく。	・多くの生徒が学校生活に積極的に取り組んでおり、文武両道を目指す学校として評価できる。
		④ 類型選択や科目選択に満足している生徒が80%以上である。	・科目選択説明会を開催し、選択科目や類型選択の位置づけやしくみを分かりやすく説明し、面談などで個別に理解を深めさせる。またPTA総会等を通して保護者の理解も深めていく。 ・本校に適した教育課程の検討を行う。	A	A	A	・類型、科目選択の説明を丁寧に行った。面談等を通じて生徒の個性や希望を把握するなど、個別指導も積極的に行った。 ・キャリア教育と入試情報の提供や調査学習を充実させる。学年、進路指導部と連携して計画的に進める。また、令和6年度の教育課程については、問題点等の検討を継続する。	・80%以上の生徒が満足できている。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 少人数・習熟度別授業を肯定的に受け止めている生徒が80%以上である。	・少人数、習熟度別クラス分けの時期や方法を工夫する。 ・学力に合った適切な授業を提供し、満足度を高める	A	A	A	・数値目標は達成できたが、個別の意見も参考に改善を図っていききたい。 ・担当の間で進捗や難易度等の調整を行い、生徒のニーズに応えられる授業を行う。	・学習だけでなく、全人的な成長がみられる。
		⑥ 授業や学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	・教科会議や職員研修で授業アンケートの結果を分析し、生徒が主体的・自主的に取り組めるよう授業を改善する。	B	B	B	・2、3年生では目標数値を達成できたが、1年生では少し届かなかった。低学年からの学習指導の見直しが必要である。 ・入学当初から、学習の意義を訴え生徒の意欲を喚起する必要がある。学力格差なども考慮し、教員間の情報共有を密にし、授業改善を図っていききたい。	・上級の学年につれ、達成度の値が良くなっている。継続的に努力してほしい。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 家庭学習時間の平均が1、2年生は2時間以上、3年生は4時間以上である。	・家庭学習時間調査の結果を進路指導部、学年会で検討し、学習時間の向上に向けた課題や面談を通して生徒の学力の伸長を図る。その際に学年間、クラス間の指導に差異が出ない指導を心がける。	A	A	A	・目標数値を3学年とも達成することができた。1、2年生での学習時間をさらに増やし、基礎力向上に努めたい。 ・適切な課題の量を各教科で調整し、家庭学習の増加を促したい。また、学習室の有効利用も呼びかけていく必要がある。	・学習時間だけに満足することなく、全生徒の学力向上となるように工夫を期待したい。
		⑧ 全国模試における平均偏差値(型別・科目別)が50以上である。	・模試結果の分析を教科担当者だけでなく、教科全体・学年全体で検討する機会を設ける。出てきた課題に対して進路指導部と学年、教科が連携して必要に応じた策をとる。	B	B	B	・1、2年生では50を越えている模試もある。3年生の共通テストでは5-8文系は全国平均点を上回ることができたが、5-7理系は及ばなかった。低学年から共通テストを意識していく必要がある。 ・共通テストの成績が入試結果にも大きく影響するため、低学年からの情報収集、対策への取り組みが必要となってくる。	・さまざまな入試の体系に対応できるように、全体がレベルアップしていくようにそれぞれのレベルに適切な指導をしている。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 生徒の動向に関する学年会議や分掌会議を週1回以上行い、情報の共有を図る。	・時間通りに会議の時間を組み込み、情報交換を密に行う。 ・学年と分掌の情報交換を密にする。	A	A	A	・各会議を週1回実施し、生徒について情報共有を確実に行った。 ・各生徒についてきめ細かい情報を効率よく共有するため、情報共有シートを活用していききたい。	・情報共有シートを活用しており、今後も継続したい。
		⑩ 学級担任による個人面談を年に3回以上実施する。	・生徒との面談時期を設定し、計画的な相談活動を行う。 ・日常的な声かけを継続する。	A	A	A	・各担任が積極的に面談の機会を設定し、生徒の状況や考えについて詳しく把握した。 ・設定された面談期間のほか生徒の状況に応じて臨時的な面談を行い、さらに詳細に状況把握に努める。	・学校として設定した面談期間のみならず、時宜に応じて面談できている。素直な生徒が教員と信頼関係を築いている。
	5 学校いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると伝えている生徒・保護者が80%以上である。	・アンケートを実施し、生徒の悩みに早期対応できるようにする。 ・生徒会を中心にいじめ防止月間など利用して、学校全体でいじめ防止に向けた取組を行う。 ・教育相談更りやリーフレットを定期的に発行、配布する。	A	A	A	・生徒・保護者とも80%以上がしっかりと伝えていると回答した。いじめ防止強化月間を年2回実施しているが、定期的アンケートや日常的な状況観察により早期発見に努めている。 ・生徒・保護者・職員が一丸となっていじめを許さない雰囲気形成するとともに、小さなトラブルに早期に気付く態勢を整えていじめの未然防止に努めるとともに、発生した際には迅速・的確に対処していく。	・生徒・保護者とも80%を超えた回答を得られた。今後もこの状況を維持していきたい。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 学校行事や部活動に積極的に参加していると考えている生徒(子供が積極的に参加していると考えている保護者)が80%以上である。	・学校行事に向けた準備や部活動の様子を生徒会新聞等で紹介するなど、計画的かつ積極的に学校行事や部活動を実施・運営し、生徒が学校生活に前向きに取り組める体制、環境を構築する。	A	A	A	・生徒の約90%、保護者の90%以上が積極的に活動していると回答した。感染防止策に細心の注意を払いながら各行事を実施することができた。 ・社会情勢に合わせた感染症対策を検討しつつ、積極的に部活動や学校行事を行い、学校のさらなる活力向上を目指していききたい。

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。		⑬ 1日の平均遅刻者数は、全校生徒の1%以下である。	・家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻・早退の防止に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。特に遅刻指導に重点を置き、時間厳守の習慣化に努める。	B	B	B	・1日の遅刻者数が在籍比1.6%となってしまった。生徒の健康管理などについて指導を続けていきたい。 ・生徒のより良い生活習慣の確立と、魅力ある学校生活の実現を目指して努力していく。	・家庭の協力を得ながら努力していくことが必要である。
		⑭ 交通事故の発生率が全校生徒の1%以下である。	・SHRなどを通じて日頃から安全意識を育てる指導を行い、交通ルールの遵守について徹底するとともに、交通法規について学ぶ機会を設ける。 ・交通安全教室やマナーアップ運動などの機会を利用して、交通マナーの向上に努めさせる。	B	B	B	・交通事故発生率が2.2%となってしまった。大きな事故は起きていないが予防策に取り組む。 ・交通安全通信やヘルメット着用指導を通じて安全意識の高揚を実現する。	・交通事故の発生率が上がっている。ヘルメットの着用について更なる指導が必要である。
		⑮ 安心して学校生活を送っていると考えている生徒・保護者が90%以上である。	・学年運営、学級運営において生徒一人一人との関わりを密にするよう配慮する。 ・規律正しい学校生活を送れるよう指導するとともに、教育相談やスクールカウンセラーの活用方法を周知するなど、生徒が馴染みやすい環境を整える。	A	A	A	・生徒・保護者とも約95%が安心して学校生活を送っていると回答した。 ・現在の指導方針を維持し、さらに安心して生活できるよう環境を整えるよう努める。	・全ての学年で90%を超えることができていない。スマホ等の利用についてはすべてを禁止するのではなく、自立した考え、使い方などを指導する方向もしてほしい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路に関わる資料・教材を有効に活用している生徒・保護者が80%以上である。	・進路に関わるデータ、資料や教材を、生徒が有効に活用できるよう指導する。また、保護者にも進路資料等が届くよう配慮する。	B	C	B	・1,2年生で70%未満、3年生で約80%という結果であった。低学年のうちから進路情報の意義や活用方法を丁寧に説明する必要がある。 ・学年が上がるにつれ活用できる生徒が増えてくるので、配布物の精選や、利用法の詳しい説明を行い、数値を上げていきたい。	・進路に係る情報がよく生徒に伝わっている。
		⑰ 3年間の進路指導計画に基づき、有効に補習や学習室等を活用できている生徒が80%以上である。	・生徒の学力に即した補習が実施されているか学期単位で確認・修正していく。また、学習室の環境整備に努める。	B	C	C	・各学年とも80%に届かなかったが、土曜補習の出席率は高く90%を超えている。学習室利用は1年生が増えてきているので来年に期待が持てる。 ・低学年での学習室利用者が増えてきているので、来年度も継続し、さらには新入生に利用を促していきたい。	・アンケートの内容を再検討する。学習室の利用について、更に呼びかけてほしい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑱ 3年間を見通したキャリア教育プログラムへの肯定的な参加が80%以上である。	・総合的な学習・探究の時間を活用した本校のキャリア教育「iProgram」のスムーズな運営に努める。LHRにおいても適切な資料を作成し、生徒の進路選択をサポートする。	A	A	A	・各学年とも目標数値を達成できた。3年生90%を超えた。キャリア教育の意義を実感している生徒が多いと思われる。 ・学年が上がるにつれ、数値が上昇しており、キャリア教育が進路選択に良い影響を与えていることが推測できる。今後の行事の精選を含め、充実した内容のプログラムを実践していきたい。	・学校全体で目的を持って取り組んでいる成果が現れている。より充実した教育プログラムになるようにしたい。
		⑲ 進路実現に向けて取り組んでいる生徒が95%以上である。	・授業、家庭学習の充実とキャリア教育・進路学習をその補完としながら、目標を明確にし、その実現に全力を注がせる。	B	B	B	・3年生は97%であったが、1,2年生は80%を少し超える数値であった。低学年から進路意識を高め、早期に目標を設定させて努力させるように持って行きたい。 ・入学当初より学習する意義を話して、早期から目標を定めて学習に取り組めるよう、進路行事の適切な計画と実施を心掛けていきたい。	・目標を持つ大切さ、目標を生徒自身で決めていく大切さを学校全体で考えていきたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ Webページを月1回以上更新する。	・保護者・生徒に有用で適切な情報を適宜発信するよう努力する。	A	A	A	・最新情報の掲載や長期更新されていないデータの更新を進めることができた。 ・新しい情報の掲載やデータの更新に、きめ細かく作業できるよう分担やスケジュールを作成する。	・情報発信ができています。
		㉑ 学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	・コロナ感染症に注意しながらPTA総会や学年別進路講演会を開催し、保護者への情報発信の場とする。	B	B	B	・目標数値は達成できていないが、今年は3学年とも対面での講演会を実施できたことは良かった。 ・講演会の内容を講師と事前に打ち合わせしながら、より保護者のニーズに合った講演会となるように努め、参加率を上げていきたい。	・PTA総会や学年別進路講演会が開催され保護者への情報発信の場となっている。
		㉒ 可能な範囲で公開授業を実施する。	・学年別進路講演会と連携し、可能であれば授業公開をすすめる。また、中学生やその保護者向けの授業公開も同様とする。	A	A	A	・1,2学年で学年別進路講演会と連携し、公開授業を実施することができた。 ・来年度以降は各学年で実施できるように計画していきたい。	・公開授業を実施することができた。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉓ 学習支援ソフトウェアを週1回以上利用している	・授業の進行と並行して、生徒の理解を深め、学力を定着させるような学習支援ソフトの課題設定等を行う。	A	A	A	・週1回以上利用している生徒は、初めて90%を超えた。自主的な学習を進められるよう、さらに定着するよう工夫していく。 ・1人1台パソコンを積極的に活用し、学習活動に活かせるよう、定期的に担任や教科担当が指導、支援をしていく。	・AIの授業活用など対応してほしい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の70%以上が満足している。	・ICTを積極的に活用するために、担当者を中心として全職員で推進していく。	A	A	A	・各学年、学校全体としての通知・連絡等をきめ細やかに行った。80%以上が満足であると回答している。 ・保護者にも職員にも便利になるよう、有効な活用法を導入して、情報発信、連絡、アンケート等の活用を進めていく。	・欠席連絡フォームを導入したことにより、円滑な情報共有ができています。 一斉メールでの連絡も適切に行うことができています。